

## 国際会議報告：「The 26th IEEE\*1 International Conference on Advanced Information Networking and Applications 2012 (IEEE AINA 2012)」

2012年3月26日(月)から3月29日(木)の4日間、FITホールにて「The 26th IEEE International Conference on Advanced Information Networking and Applications 2012 (IEEE AINA 2012)」が開催されました。

IEEE AINA-2012は、26回目の国際会議で本学では2004年に続き2度目の開催でした。AINAは、ネットワークを中心としてその応用まで含めた幅広い分野での最先端の研究発表を行い、研究者相互の意見交換、議論、交流を図る場を提供することが目的です。AINAという名前での国際会議は2003年の中国(西安)からで、2003年以前は、ICOIN (International Conference on Information Networking)という会議名でした。AINAは2009年にイギリスのブラッドフォード、2010年はオーストラリアのパース、そして、2011年はシンガポールと全世界で成功し続けている国際会議です。当初の予定ではAINA-2012は東京で開催を予定していましたが、2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震の影響で急遽、福岡で開催することになりました。今回のAINAでは、アジア太平洋地区及び欧米などから新規性、有用性等の観点から優れた論文がプログラム委員により選ばれ、投稿された445件の論文から126件が採録されました。また、本会議と併設して、専門分野により特化した17のワークショップが開催され合計で231件の論文が採択されました。参加人数は、講演者と公聴者で延べ380名近くでした。招待講演では、①東日本大震災を教訓にした大規模自然災害を想定した情報通信システムの設計原理、②高性能データベース処理、③P2Pコラボレーションシステムでのデータ複製及び同期に関する最新動向について講演が行われ好評でした。

情報通信工学科からは、岩重先生、内田先生、バロリ先生、前田先生、池田先生、本田先生、楊先生が講演(連名も含む)を行い、知能情報システム工学専攻の大学院生(Kulla, Spaho, 肥山)、情報通信工学専攻の大学院生(武末、梅崎、小田)及び情報通信工学科の学部生(王)が講演を行い、熱心に議論が行われました。中でも、情報通信工学専攻1年生の小田哲也君の論文「Effect of Population Size for Node Placement in WMNs Considering Giant Component and Number of Covered Users Parameters」が **Highly Commended Award** を受賞しました。



〔開会式 Steering Committee Chair 滝沢教授の挨拶〕



〔情報通信工学専攻の大学院生(小田)の講演〕



〔野口教授の招待講演〕



〔Highly Commended Award 受賞(小田:左から2人目)〕

\*1 米国電気電子学会